

守山企業景況調査報告書

(第7回)

平成23年4月～平成23年6月期 実績

平成23年7月～平成23年9月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 23 年 4 月～平成 23 年 6 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	20	100.0%
製造業	13	13	100.0%
建設業	12	12	100.0%
サービス業	20	19	95.0%
卸売業	6	6	100%
合計	71	70	98.6%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 23 年 4 月～平成 23 年 6 月、見通しを平成 23 年 7 月～平成 23 年 9 月とし、調査時点は平成 23 年 7 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 23 年 4 月～6 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 23 年 4 月～6 月期の調査結果では前回調査に比べて、業況、売上高、採算（経常利益）、資金繰りの主要 4 項目の DI 指数が全てについてマイナスとなった。特に売上高は平成 23 年 1 月～3 月期の▲6.3 から▲28.6 とこの 4 項目の中ではマイナス幅が最も大きくなった。DI 指数が最も低いのは過去 4 四半期間変わらず採算（経常利益）で、4 月～6 月期も▲52.9 であった。

7 月～9 月期の見通しでは、業況、売上高、資金繰りの 3 項目が 4～6 月期よりも悪い指数であるが、採算（資金繰り）は DI 指数のマイナス値が改善している。

<業況>

平成 23 年 4～6 月期の業況は▲27.5 と前回調査に比べて 8.7 ポイントの悪化となった。業種別に見ると、小売業、サービス業では指数がそれぞれ 5.5 ポイント、8.3 ポイント上昇しているが、製造業、建設業、卸売業では指数が下落している。特に卸売業では前回調査が 0 であったのに対して今回調査は▲50.0 と大幅な下落が見られる。

7～9 月期見通しでは、全体の指数が 13.7 ポイント下落しており、小売業、製造業、サービス業で下落、建設業が上昇、卸売業が横ばいとなっている。

<売上高>

売上高の 4～6 月期の DI 指数は▲28.6 であった。前回調査に比べると、22.3 ポイントの下落である。業種別では小売業が 28.2 ポイントの下落、製造業が 38.5 ポイントの下落、卸売業が 100 ポイントの下落となっている。建設業は 8.4 ポイントの改善、サービス業が 5.0 ポイントの改善であった。

7～9 月期の見通しは▲39.1 であり、10.5 ポイントの下落見通しとなっている。

<採算（経常利益）>

採算は全体で▲52.9 となり、前回調査より 1.3 ポイント下落した。小売業 14.7 ポイント下落、製造業が 15.4 ポイントの下落、卸売業が 33.3 ポイントの下落となっている。建設業は 33.4 ポイントの改善、サービス業が 28 ポイントの改善している。

7～9 月期の見通しは▲41.2 であり、11.7 ポイントの改善となっている。

<資金繰り>

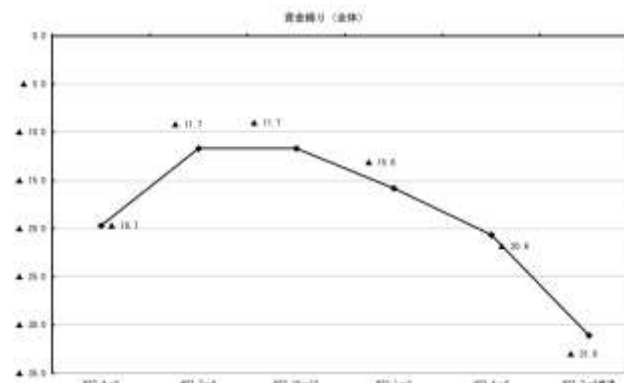
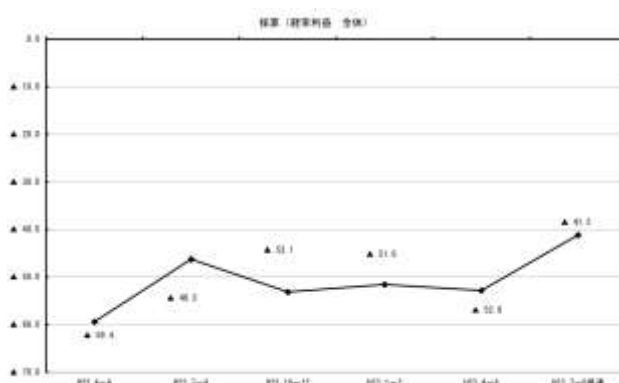
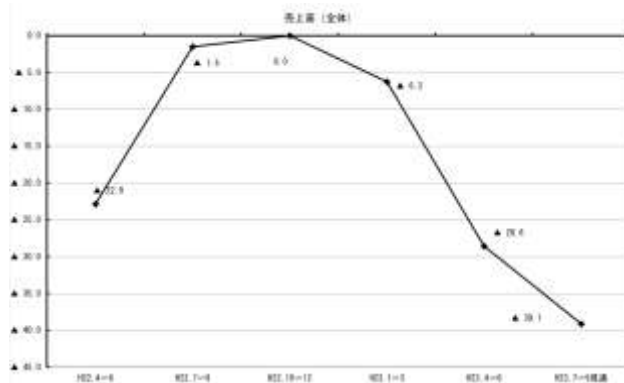
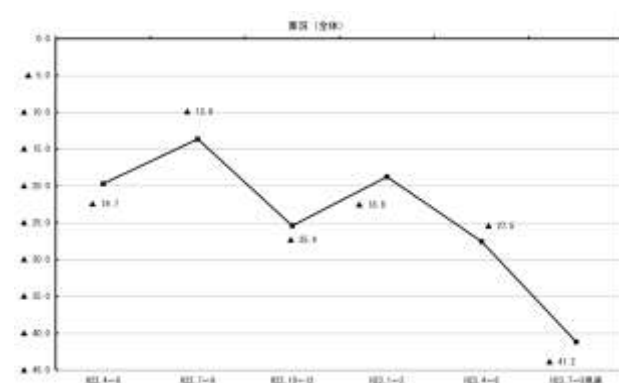
資金繰りの DI 指数は▲20.6 となり、前回調査の▲15.8 と比べると 4.8 ポイントの下落になっている。業種別では、小売業が 4.9 ポイント下落、製造業が横ばい、建設業は 0.8

ポイント改善、サービス業が0.4ポイント改善、卸売業は33.3ポイント下落となっている。

7～9月期の見通しは▲31.0と4～6月期の実績よりも10.4ポイント下落している。

<その他の意見>

- ・ 国政の不安定から消費者マインドが冷込み、厳しい状況が続くのではないかと思う。
- ・ 需要の停滞のため競争の激化が激しくなっている。
- ・ 現在は助成金が出ているが、助成金終了後の景気が心配される。
- ・ 東日本大震災による節約、県のもったいない精神の浸透等物品への生活満足度が減っている。このままでは、日本の消費社会は30年前に逆戻りしてしまう。
- ・ 社会的コストアップ率以上の賃金（所得）アップがないと売上につながらないと思う。
- ・ 政権が変わらないと景気は悪化し続けると思う。
- ・ 東日本大震災、政局不安定、セシウム問題の拡大など今年後半に不安を残し、来年の増税実施予想とあわせて、一般家庭の家計への影響により、消費の停滞が懸念される。



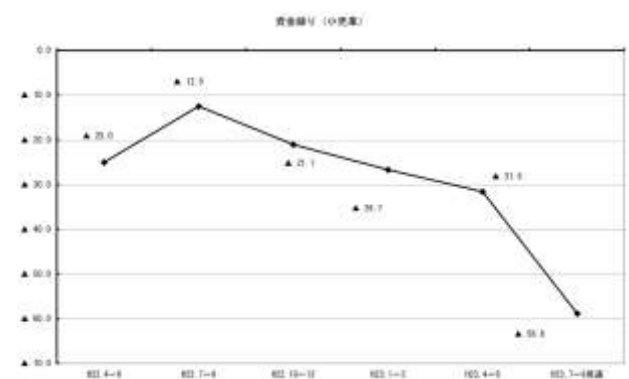
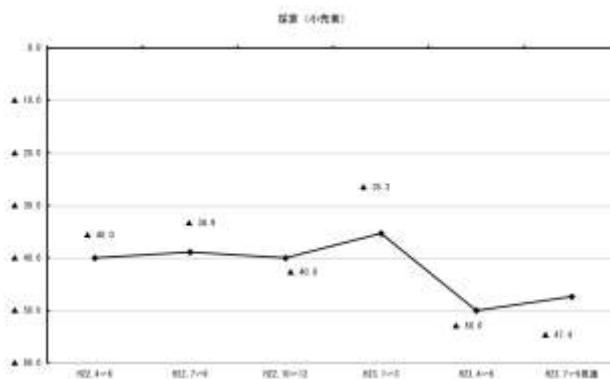
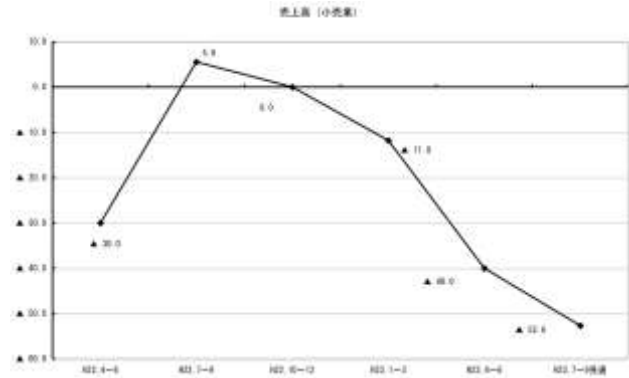
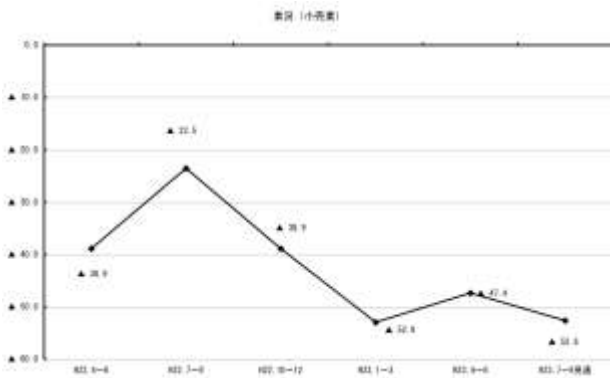
小売業

小売業の業況 DI は▲47.7 と前回調査の▲52.9 から比べると 5.5 ポイント改善しているものの、平成 23 年に入って▲50 前後の低い指数が続いている。平成 22 年 4~6 月期の DI が▲38.9 であったので、それと比べると 8.5 ポイントの下落である。7~9 月期の見通しも▲52.6 と改善が見通せない状況になっている。

売上高の DI は▲40.0 と 28.2 ポイントの下落である。平成 22 年 7~9 月期の 5.6 をピークに 3 四半期連続の下落であり、今回調査の下落が過去 1 年間で最も大きい。7~9 月期の見通しも▲52.6 とさらに下落を予想しており下げ止まる気配を見せない。

採算（経常利益）の DI は▲50.0 と過去 1 年間で最低の指数である。平成 23 年 1~3 月期までは▲40 付近を前後していたが、4~6 月期になって▲50.0 まで落ちた。7~9 月期見通しも▲47.7 であり、▲50 付近での動きになりつつあるかのような見通しである。

資金繰りの DI は▲31.6 と平成 22 年 7~9 月期から 3 四半期連続で指数が悪化している。7~9 月期見通しは、▲58.8 と大幅な下落見通しとなっており、売上高の下落と連動するように資金繰りも悪化の一途をたどるかのような見通しになっている。



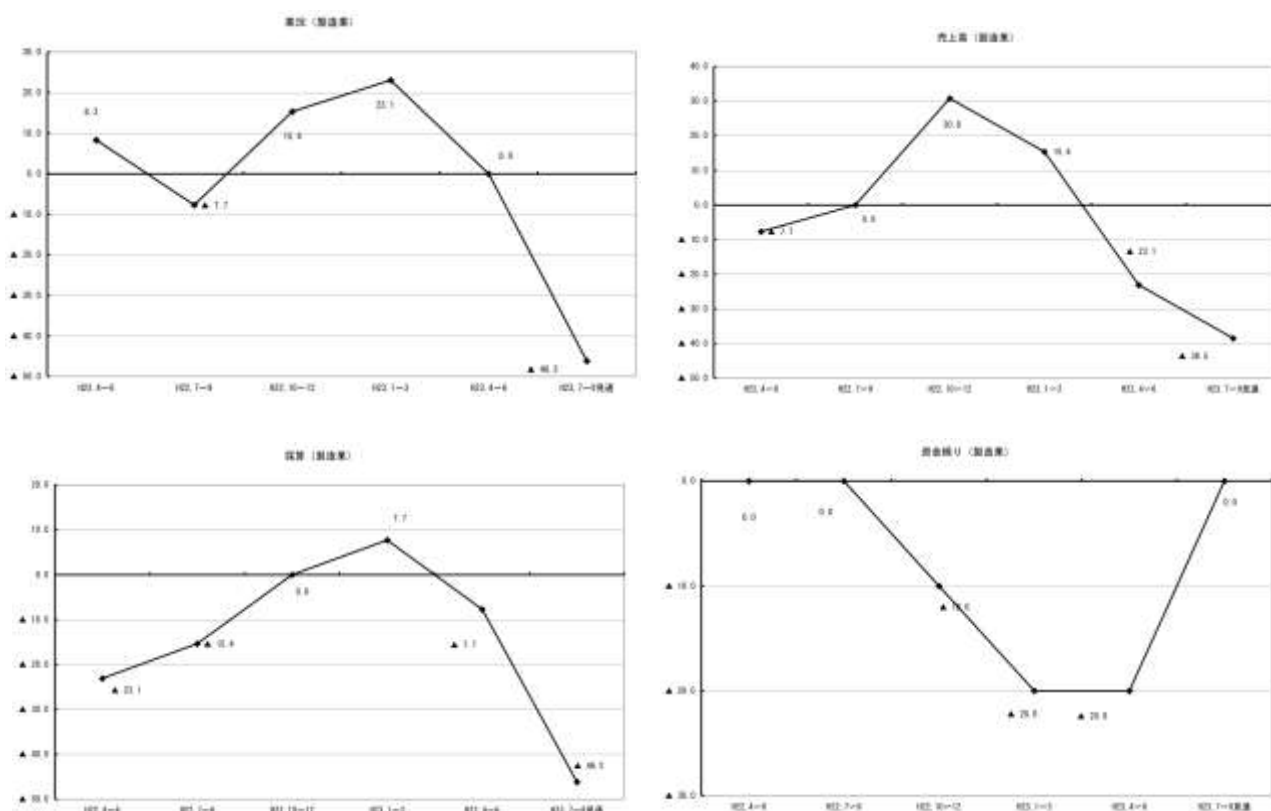
製造業

製造業の業況DI指数は±0となりマイナス指数にならずにすんだ。前回調査時点での4～6月期の業況見通しが▲33.3であったので、見通しと比べると実績は悪くなかったと言うことであろうか。しかし、7～9月期の見通しは▲46.2となっており、過去1年間になかった水準の厳しい見通しである。

売上高のDIは▲23.1となった。1年前の平成22年4～6月期以来のマイナス指数であるが、このときは▲7.7であったので、過去1年間にはない売上高の落ち込みである。平成23年1～3月期のDI15.4からすると38.5ポイントも下落している。7月～9月期の見通しはさらに厳しく▲38.5で、製造業の売上高は下落傾向が止まらないと見込まれている。

採算（経常利益）のDIは▲7.7となり全体調査で7.7とプラスになった指数が再びマイナスの領域に入った。1年前の平成22年4～6月期が▲23.1であったのでその水準には達していないようだが、7～9月期の見通しは▲46.2と極端な落ち込みになっており、採算が一気に悪化することが懸念される。

資金繰りは▲20.0と前回調査と同じ指数になった。3四半期連続のマイナス指数であるが、横ばいとなったことで下げ止りの様子が見える。7～9月期の見通しでも0.0と指数が回復しており、資金繰りに関してはこれ以上の悪化は見通されていない。



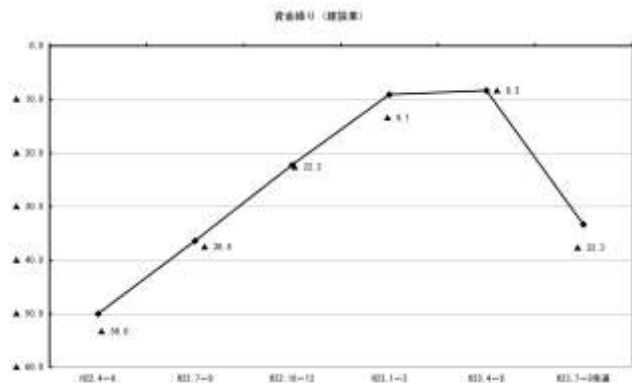
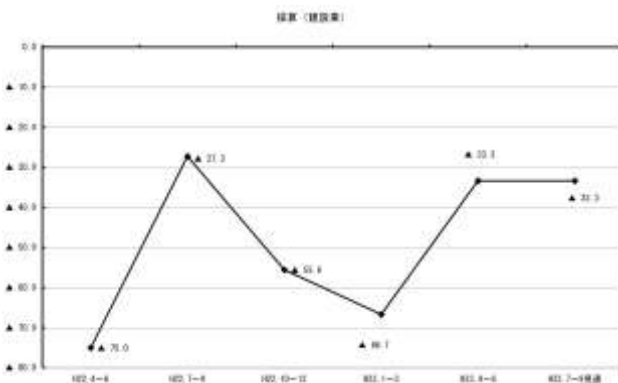
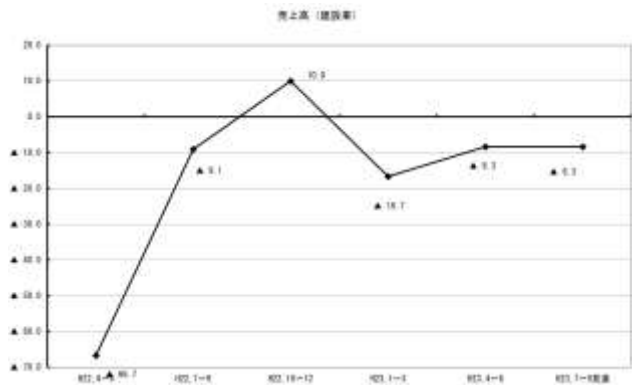
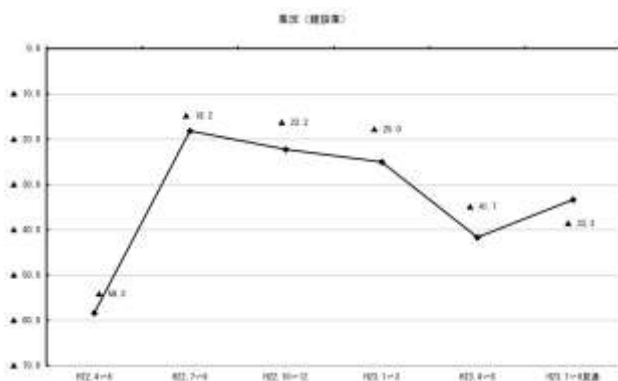
建設業

建設業の業況DIは▲41.7となった。過去1年間で最も指数が低かった平成22年4～6月期のDI▲58.3に比べれば16.6ポイントの改善と見ることができるが、前回調査の平成23年1月～3月期との比較をすると16.7ポイントの下落である。しかし、7～9月期の見通しは▲33.3となっており、回復が期待される。

売上高DIは▲8.3と前回調査に比べて8.4ポイントの改善である。前回調査時点での4～6月期見通しは▲66.7であったので、前回調査時点での見通しが良い方向にはずれたと言える。この傾向は7～9月期の見通しでもDIが▲8.3と4～6月期と同数であることから1年前の▲66.7のような極端に低い指数にならないであろうことを期待させるものである。

採算（経常利益）のDIは▲33.3と前回調査に比べて33.4ポイントの改善であった。1年前の▲75.0から比べると41.7ポイントと大幅な改善が見られる。また、過去1年を振り返り替えると改善と下落を繰り返している採算DIであるが、7～9月期の見通しは4～6月期と同数値になっており、このサイクルからの脱却も期待できるものとなっている。

資金繰りは▲8.3と4四半期連続の改善となっている。1年前の▲50.0からすると41.7ポイントの改善である。しかし、7～9月期の見通しDIが▲33.3と平成22年7～9月期とほぼ同水準の数値に戻っており、この項目は楽観視できないものになっている。



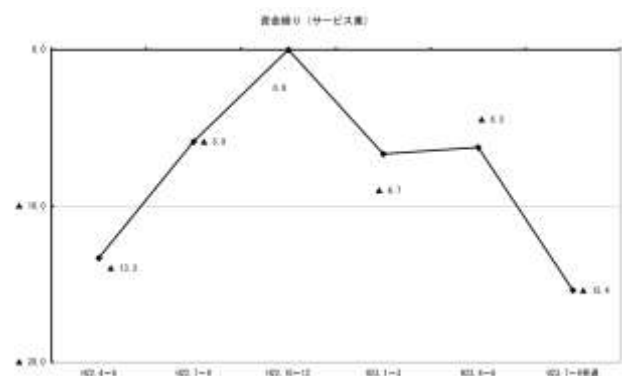
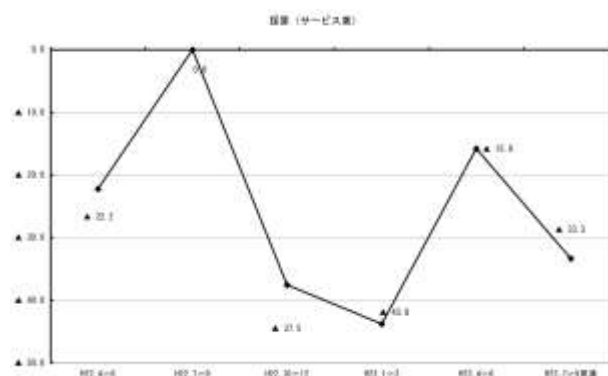
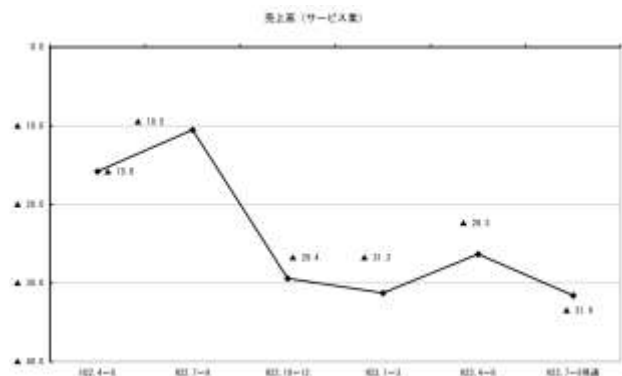
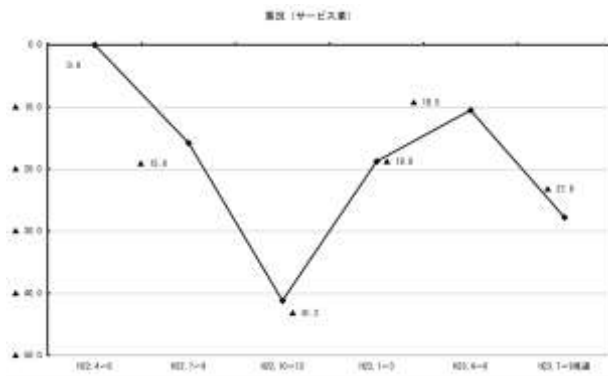
サービス業

サービス業の業況DIは▲10.5となった。前回調査の平成23年1～3月期に比べて8.3ポイントの改善である。また、過去1年間で見ると平成22年10～12月期の▲41.2を底として2四半期連続の改善となっている。しかし、1年前の平成22年4～6月期が0.0であったので、これを基準に見るとまだそこまで戻っていないように見え、7～9月期の見通しが▲27.8と反転しているのので、今後を注視しなければならない。

売上高のDIは▲26.3と前回調査よりも改善している。過去1年間で見ると平成22年10～12月に指数が下って以来3四半期振りに改善している。しかし、7～9月期見通しは▲31.6と再び指数が悪化しており、回復がこの先起こるのか観察を要する。

採算（経常利益）のDIは▲15.8となり、前回調査に比べて28ポイントの改善を見せている。採算は平成22年7～9月期の0.0を境に2四半期指数が悪化し、前回調査では▲43.8まで下げたが今回は大きく回復している。しかし、7～9月期見通しで▲33.3と指数の下落が見通されているのは回復基調ではないことの表れであろうか。

資金繰りについては、DIが▲6.3と前回調査とほぼ横ばいになっているが、これは平成22年10～12月期の0.0をピークに山型のカーブを描いており7～9月期の見通しが▲15.4と山型カーブの谷に向けて推移していく過程であると見られる。



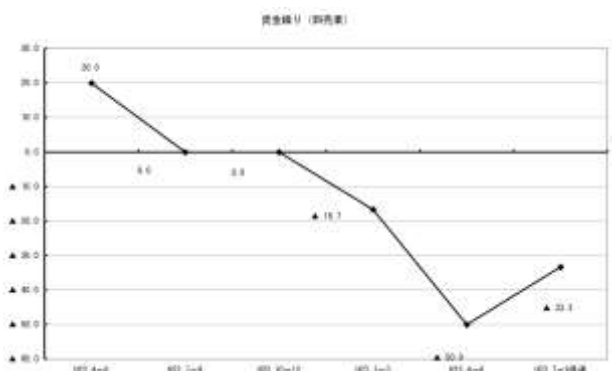
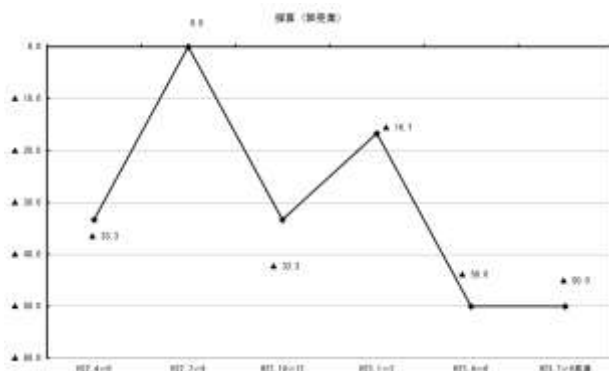
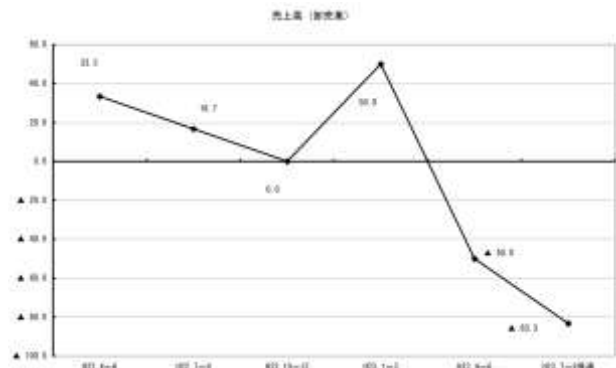
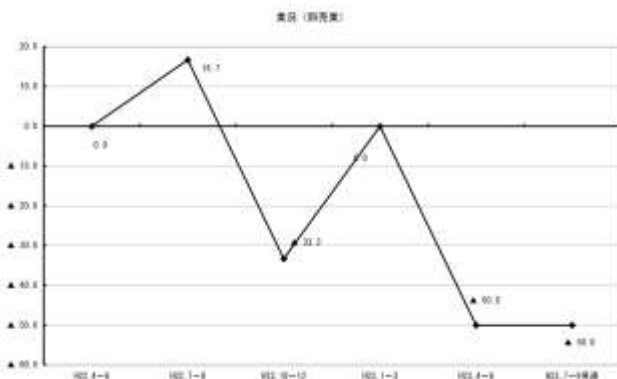
卸売業

卸売業の業況 DI は▲50.0 と前回調査に比べて 50 ポイントの下落となった。過去 1 年間で振り返ると卸売業の業況は回復と下落を繰り返しており、今回調査は下落する四半期ではあるが、1 年の傾向としては右肩下がりになっている。また、7～9 月期の見通しが今回調査と同じ▲50.0 となっているので回復の四半期に入るはずの次四半期が回復になるのかは注目しなければならない。

売上高 DI は▲50.0 と前回調査に比べて実に 100 ポイントの下落であった。前回調査が 50.0 と過去 1 年間で最高の指数であったのとは対照的な落ち込みである。これも過去 1 年間で右肩下がりの傾向を見せており、7～9 月期の見通しが▲83.3 と更なる落ち込みを見せているのが気掛りである。

採算（経常利益）の DI は▲50.0 であった。これも過去 1 年間で右肩下がりの傾向となっている。また、採算は業況と同じようなカーブを描いており 7～9 月期は回復のサイクルであってもおかしくないはずであるが、見通しは▲50.0 と回復のサイクルに乗れず、厳しい見通しとなっている。

資金繰りは▲50.0 と過去 1 年間で最も低い数値となった。1 年間で見ても、回復サイクルに入ることなく下り続けて、最低の数値となってしまっている。しかし、7～9 月期の見通しでは▲33.3 と 5 四半期振りに回復する見通しが出ており、今回調査時点が底であると見通されている。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	4月～6月期動向	7～9月期見通し	4月～6月期動向	7～9月期見通し	4月～6月期動向	7～9月期見通し
全 体	▲ 27.5	▲ 41.2	▲ 28.6	▲ 39.1	▲ 52.9	▲ 41.2
小売業	▲ 47.4	▲ 52.6	▲ 40.0	▲ 52.6	▲ 50.0	▲ 47.4
製造業	0.0	▲ 46.2	▲ 23.1	▲ 38.5	▲ 7.7	▲ 46.2
建設業	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 8.3	▲ 8.3	▲ 33.3	▲ 33.3
サービス業	▲ 10.5	▲ 27.8	▲ 26.3	▲ 31.6	▲ 15.8	▲ 33.3
卸売業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	4月～6月期動向	7～9月期見通し	4月～6月期動向	7～9月期見通し	4月～6月期動向	7～9月期見通し
全 体	4.3	▲ 2.9	▲ 36.4	▲ 29.8	▲ 3.0	▲ 3.1
小売業	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 52.9	▲ 50.0	11.8	0.0
製造業	46.2	38.5	▲ 16.7	▲ 27.3	7.7	16.7
建設業	▲ 8.3	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 8.3	▲ 16.7
サービス業	0.0	▲ 5.6	▲ 26.3	▲ 31.6	▲ 21.1	▲ 11.8
卸売業	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 66.7	▲ 33.3	0.0	0.0

	3カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	4月～6月 期動向	7～9月期 見通し	4月～6月 期動向	7～9月期 見通し	4月～6月 期動向	7～9月期 見通し
全 体	▲ 20.6	▲ 31.0	▲ 2.0	▲ 6.4	0.0	▲ 2.2
小売業	▲ 31.6	▲ 58.8	0.0	▲ 9.1	0.0	▲ 9.1
製造業	▲ 20.0	0.0	9.1	0.0	10.0	10.0
建設業	▲ 8.3	▲ 33.3	▲ 9.1	▲ 9.1	0.0	0.0
サービス業	▲ 6.3	▲ 15.4	▲ 9.1	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 11.1
卸売業	▲ 50.0	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0	0.0